

## 北方圏センター

### 「カルチャーナイト」に大勢の市民

7月17日(金)午後6時半から、公共の場所、文化施設、民間の会社などを夜間開放してそれぞれが持っている専門分野や特色を生かした文化プログラムを行う「カルチャーナイト」が始まった。

大人も子どもも自由に参加できるもので、北方圏センターでは海外から来ているJICA研修員や北海道技術研修員などに協力してもらい、「世界の遊びを体験しよう」、「世界の文字で名前を知ろう」、「世界の民族衣装を着てみよう」などのプログラムを揃えて、生活や文化を体験してもらった。

パプアニューギニアの言葉で自分の名前を書いてもらったり、ラオスの研修員が紙に書いて用意してくれ

たラオス語を見せてもらったりと興味は尽きないようであった。各国語で書いてもらった自分の名前はラミネート加工し各自が持ち帰った。

また、センター前のスペースでは、北欧フィンランド生まれのエクササイズであるノルディック・ウォーキングの体験も行われるなど夜9時まで親子連れ、家族連れなど約200人の市民、来訪者で賑わった。



▲自分の名前を書いてもらう



▲研修員との遊びに興じる子どもたち

世界の遊びを体験しよう

世界の文字で名前を知ろう

## 地域のイベントレポート

### みんなで地域交流

#### 札幌国際センター

#### 世界を知ろう、「世界の見聞広場」開催

8月29日(土)の午後、札幌市のリフレサッポロのホールでJICA札幌が受け入れている40カ国を超える国々からの研修員約90名がアジア、ラテンアメリカ・カリブ、アフリカ・中近東・欧州・大洋州の3つの地域に分かれてそれぞれお国自慢の踊りや歌などをステージ上で披露した。"世界の人々との触れ合いを通じて、見聞を広めよう!"と、近隣の市民を交えて毎年開催している「世界の見聞広場」のイベントで、200席のホールはほぼ満席の盛況であった。終了後の審

査では各賞の発表に続いて、会場来客の拍手の大きさを最優秀地域グループ賞を決定し、ウクライナのグループがエネルギッシュな踊りを見せたアフリカ・中近東・欧州・大洋州混合チームが受賞した。

後半はJICA札幌の中庭で、研修員と来場者との交流会が行われ、南京玉すだれなどの日本文化紹介などを行い、最後にジャマイカ、ブラジル、タンザニア、ケニアなどのリズムミク曲に合わせて研修員と輪になって踊りを楽しんだ。

▲アフリカチームのダンスの様子

#### 帯広国際センター

#### 夏本番、「世界のともだち 2009」

7月5日(日)、ジリジリと陽差しが照る一日、JICA研修員、留学生など在住外国人などと市民が交流する夏のイベント「世界のともだち」が行われた。

森の交流館との間の広場に設置されたステージでは、サモアからの研修員による踊り、訪れた市民も参加してのアフリカン・ドラムの壮大な合奏、十勝出身のグループ「わくにこ」によるジャズ演奏が行われた。演奏の前後には、グルグルバット、水鉄砲、クイズなども行われた。小さな子どもたちのための遊び場ではお面作りや大きな紙のぬり絵などもあって子どもたちで賑わっていた。



研修員からシールをもらって「Friends」の文字を完成させるスタンプラリーでは研修員と話す子どもたちの姿も。

「森の交流館」内では地域のNGOがブースを設置して活動を紹介、屋台では、留学生や研修員が準備して販売した各国の料理や飲み物が人気でランチタイム

に賑わっていた。

帯広市国際交流員などが振り付けをしたという「世界のともだち」ダンスを会場の参加者全員で踊って、暑くて暑い一日であった。



▲子どもぬり絵コーナー